

なぜ「米英戦争」によって経済的自立が進んだかを明示しよう。
戦争中に「イギリスからの工業製品の輸入が途断した」ことが、合衆国北部の工業の発展を促し、経済の自立を進めたのである。(2)

「18世紀末」以降の歴史について問われている。
本問ではアメリカ独立戦争についての言及は不要である。

ホイットニーの綿繰り機の発明は1793年のことである。
本問では「18世紀末」の出来事から書き出すことが求められているので、この事項を解答の冒頭に持っていく方が、題意を捉えた答案となるだろう。

「綿繰り機」も発明機を明記しよう。(1)

アメリカ独立戦争の結果、1776年に独立を宣言したアメリカだが、経済的にはイギリスに隷属したままであった。経済的自立を目指して起ったのが米英戦争であり、その結果アメリカの経済的自立が進んでいった。ホイットニーの発明により、アメリカ国内では綿花の生産が盛んになっていった。綿花は南部のプランテーションで奴隷によって生産された。一方北部では工業が発達していった。南北の対立から南北戦争が勃発し、北部が勝利したことで工業がさらに発展した。特に重化学工業での発展が進み、従来の保護貿易から自由貿易へとシフトしていった。そして、第一次世界大戦を経てアメリカは世界一の工業国となった。

下線引き忘れ (1)

事実誤認。(1)
指定語句「保護貿易」は南北戦争勃発の背景として南北の立場を説明する際に用いる。

「19世紀末まで」の歴史について問われているので、第一次世界大戦(1914~18)は範囲外である。
また、合衆国が世界一の工業国となったのは、1890年代のことである。

南北戦争後の合衆国の経済的発展の要因として、「大陸横断鉄道の開通などにより西部開拓が推進された」ことを説明しよう。(3)

二のように南部と北部では異なる産業が発展したため、貿易に対し両者は異なる主張を展開した。

- ・南部は、綿花をイギリスに輸出するために、自由貿易を求めた(4)
- ・北部は、(イギリス工業に対抗するために)保護貿易を求めた(1)

南北戦争の経済的背景、および「イギリスとの関係」という視点から、上記の点を明記しよう。

《合格への一手》

〈本問のポイント〉

「合衆国の経済的発展」という主題を意識して解答を作成できているが、事実誤認や設問の要求の見落としが散見されました。
経済史は差がつかやあい分野なので、改めて知識を確認し、テーマに沿って適切な史実を選択することも心がけましょう。

〈要復習〉

北部・南部で発達した産業の特徴と、「保護貿易」「自由貿易」という主張の因果関係を整理しておきましょう。
解答解説編の「解法」で要求の読み取りと用語の適切な使い方を確認しましょう。